

広報

No.162

くま

昭和61年12月15日

発行・編集 国見町企画課

おもな内容

シリーズ④ ふるさとを偲んで
 (小坂宿・鳥取宿)..... 2～4
 62年度就学予定者..... 5
 流域下水道県北処理区の工事着手..... 6
 ふるさとの文化財..... 7
 おしらせ..... 8～9
 公民館だより..... 10～11
 わだい..... 12



'86
12月

ふるさとを偲んで

“鐘楼”
(徳江の観音寺)

シリーズ ④

小坂宿 ふるさとを偲んで鳥取宿

寒さが厳しい初冬の日、わが町の景勝の地である小坂峠の登り口、羽州街道最初の宿駅として栄えた近世の小坂宿と、それに先行した中世の鳥取宿を、郷土史研究家の菊池利雄さんと、地元の後藤伝吉さんの案内で歩いてみた。

小坂宿は、小坂峠の入口にあつて、行歩川によって形成された扇状地に立地し、羽州街道最初の宿駅である。

山麓線に沿って進んだ羽州街道は宿入口の手前で向きを東西にかえ、入口の両側には、一里塚が築かれていたが現存しない。宿駅の長さは三丁ほどで、北に高く南に低い地形から屋敷地は階段状に配されている。

宿の出口で街道は東に枳形に折れて口留番所の木戸が構えられていた。ここから少し行った所で街道は向を北にとって、行歩川の橋を渡り小坂峠への坂道へと連なっていた。

宿と連なっていた。

進んだ高台には、曹洞宗、羽州米沢の林泉寺末寺・蟠龍山松蔵寺があり、その西手にはこの村の鎮守稲荷神社が祭られている。



▲現在の小坂の街並み



▲今なお静かにたたずむ鎮守稲荷神社



▲宿はずれの新茶屋

小坂宿略年表

中世
小坂峠の南麓に鳥取宿(宿ノ淀・大門)が置かれる。この頃七ヶ宿街道は商人の往来はげしく、伊達氏はこれを保護する。(伊達文書) 慶長三年 (一五九八)

伊達郡上杉景勝領となる。この頃小坂宿が整備され、鳥取宿のもつ伝馬機能がこの宿に移される。 元和八年 (一六二二)

六月、秋田藩土梅津政景徳川家光の命を奉じ、桑折から小坂峠・間・山形への街道・宿町を六十間の縄で丈量す。小坂宿の入口に一里塚が築かるか。 寛永元年 (一六二四)

佐竹義宣参勤を終え小坂宿を通り帰国す。この頃より出羽国の諸大名参勤交代に従来の笹谷街道より金山・小坂峠越えの七ヶ宿(羽州街道)が使用される。 寛永十五年(一六三八)

小坂口留番所役に杉原七右衛門(信州三十五歳)が任ぜられる。 寛永十九年(一六四二)

四月、上杉藩(信夫海道通之立礼書並に駄賃定)を公布す。御伝馬並に駄賃荷物一駄につき四十貫目、小坂宿より戸沢宿迄一里五十六間三十一文(内十文は坂道の増金)宿泊料(木賃人十文馬十五文)等規定す。 寛文四年 (一六六四)

この頃より幕領高島のお城米、七ヶ宿、小坂峠へへて、小坂宿の御城米倉に運ばれ、ついで伊達崎、徳江川岸より江戸への津出しが行われる。 延宝三年 (一六七四)

四月、伊達郡西根之内小坂村御検地帳)が作成される。 百姓数七十七戸中五十七人宿町住まいか。 享保十四年(一七二九)

小坂峠道は産坂と呼ばれ(江戸道中記)によれば

鳥取宿

小坂宿に先行した 中世の宿駅

鳥取村の宿ノ淀と大門は、福
現寺の地藏庵観音堂(信達三十三観音堂 第三十一番札所)



▲水の神を祭った天神様



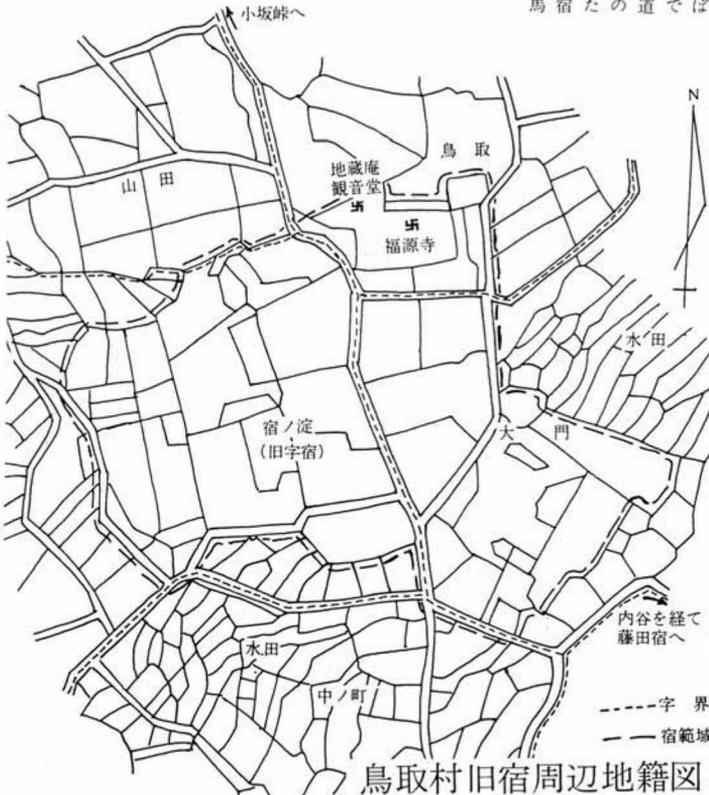
▲地藏庵観音堂 (信達三十三観音第21番札所)

の南麓、門前の地であって、現
在も家屋が密集している、この
村の中心的な集落であった。鳥
取宿の跡地である。その間を北
に向かう道は、往時の藤田宿で
奥の大道から分岐し、内谷をへ
て小坂峠・奥羽山脈を越え、出
羽国(現秋田県)に通じていた街路
とみられる。
宿ノ淀は明治以前は宿と呼ば
れ(鳥取村誌)、史料には明らかで
ないが、近世における羽州街道
の宿駅小坂宿に先行した中世の
宿駅で、木戸(大門)を構えた
関所の存在が想定され、小坂宿
の創設に伴い鳥取宿のもつ伝馬
機能が、吸収されていった。

この宿ノ淀は、県境山嶺に流
れを免ずる行歩川(行歩川は鳥取と福島の境を流す)と
谷口部に形成された扇状地の扇
側において、宿ノ淀と大門の境
界は傾斜の急な坂道であり、そ
の両側には明治の鳥取村地籍図
に「宿ノ淀」となれば、十六戸ほど
の屋敷地割のまとまりがみられ

る谷口集落で、小坂峠越えに七
ヶ宿街道沿いの戸沢・渡瀬・関
などの山地と、平地の生産物と
の交易の場でもあった。
地藏庵観音堂の縁日(西暦10月10日)
は四日市には市がたち、養蚕の
帯立て前ということもあって、
蚕具などを売る出店が立並びに
ぎわったのも、このような歴史

的背景が考えられよう。
近世のはじめ羽州街道整備の
段階で、交通の流れが桑折宿か
ら小坂峠へと変わり、鳥取宿
は地形的にみても十分な宿屋敷
を確保することができず、行歩
川対岸の地に小坂宿の設置をみ
命を終えた。
菊池利雄



鳥取村旧宿周辺地籍図 (国見町役場所蔵鳥取村地籍図によって作成)

昭和六十二年

就学予定者

昭和五十五年四月二日
五十六年四月二日生まれの方

来春小学校に入学される百七十一名のみなさん、おめでとございます。

健康に十分注意して、入学式には、みなさんそろって元気な顔を見せてください。

記載もれや誤字などがありましたら町教育委員会までお知らせください。 ☎八五二二一一一

(敬称略)

藤田小学校83名(男43、女40)

鈴木博之 藤結香
奥山和典 藤典子
山内静大 榎恵理子
鈴木教子 本田育実
曳地奈津子 紺野亮
武田ツヤ子 秦哲也
大開美 吉田哲也
大和田明日美 藤絵理
鈴木千尋 佐藤大介
菅野学 古川寛之
穂積由香 村上芳博
松浦辰巳 齋藤晃

安田亜砂美 吉田章子
遠藤恵子 齋藤美嗣
須田忠史 吉野祐嗣
洪谷宏美 田口裕志
田口宏美 田口幸一
佐藤充宏 阿部崇治
佐藤健治 佐藤由紀
菊地理沙 佐々木智
齋藤友美 佐藤喜美栄
高橋直樹 浅野知子
太田周一 末永幸恵
三木彰吉 田理恵
吉田穂正 佐久間勉
佐藤一則 立石奈都美
高橋真理 羽根加奈子
高橋陽介 上林鉄也
安藤利幸 渡辺弘子
赤坂良太 鍛冶内大輔
菊地沙織 安波愛美
後藤ひとみ 安田圭介
佐藤奈々子 黒田圭美
板橋奈々子 齋藤誠美
武田直美 加藤郁美
廣瀬健次 牧野紀子
齋藤絢子 野村尚子

森江野小学校33名(男19、女14)

渡辺亜希子 佐藤ひとみ
渡辺剛 熊坂香
佐藤裕一 鴨田幸子
佐藤和子 高橋真理子
宮崎正充 吉田吉彦
佐藤直樹 中野秀俊
渡辺佳奈子 齋藤裕幸
佐藤佳代 熊坂奈緒子
高原恵二 熊坂欣哉

小坂小学校19名(男9、女10)

野村聡美 井出康人
志田孝阿部信
藤敏 阿部康人

大木戸小学校27名(男13、女14)

小野政之 佐藤光克
松浦佳奈子 齋藤篤志
佐野勝 吉田真紀子
佐藤亜希子 佐藤智美
佐藤裕敬

大枝小学校9名(男4、女5)

松浦広和 吉川清人
長谷川 阿部和洋
渡辺裕幸 佐藤崇寿
八卷義行 藤川誠
三浦和也 渋谷朝洋
松浦金作 高橋利依
高橋幸恵 吉田加代子
鈴木和弘 高橋美里
松田香奈子 松田江美子

八巻清孝 八巻敏亨
本多清孝 八巻敏亨
佐藤志茂 徳江濱江
佐藤真由美 斎藤好恵
村上恵一 佐藤学
大波克次 大波綾子
大波剛 實槻美修
大沢孝一 實槻美修
実沢仁史 實槻美修
菊地仁史 實槻美修
高橋香奈恵 高橋奈緒美
石井のぞみ 高橋和也
大内学 佐久間美穂

齊藤知恵子 鈴木有希子
兒玉春樹 小林道広
佐藤丞治 鈴木恵理子
井砂由香子 鈴木純子
佐藤浩一

阿部善雄さんが
二年連続受賞



技能者の祭典・県技能フェスティバルが十一月二日いわき市で開かれ、県内各地から一級技能士六十四人が出場し、建築配管や広告美術、ブロック建築など八職種に分かれて腕を競いました。

このフェスティバルに建具の部で出場した阿部善雄さん(藤田字中沢、四十五歳)に、昨年に続き、フェスティバル実行委員会から賞状が贈られました。



▲徳江で行われた安全祈願祭



▲盛大に行われた起工式祝賀式

流域下水道県北処理区

の工事着手

昭和五十九年度から県で実施している、阿武隈川上流流域下水道県北処理区(福島市・桑折町・伊達町・国見町・梁川町・保原町)の下水道整備事業の幹線管渠の工事が十一月二十九日(土)起工し、昭和六十八年の一部処理供用開始に向けて工事のスタートを切りました。

引き続き、町の農協会館において起工式典が行われ、下水道事業促進を誓い合いました。県北処理区の全体計画は、処理面積八千六百四十七ヘクタール、処理人口三十一万一千五百人、一日最大処理汚水量二十万七立方メートルとなっており、快適な生活環境づくりのため大いに期待されます。

町においては、近々基本計画が策定され、工事については昭和六十三年度に着工が予定されています。

献血ありがとうございます

ごぎいしました

十一月十八日協力者(敬称略)

(一般協力)

高橋 富美子 半沢 信子
阿部 節子 阿部 信子

(国見電子)

森 晴子 阿部 英人
菅野 浩 赤坂 はるい
半沢 弘子 須田 優子
鈴木 信也 朽木 悦子
阿部 典昭 佐々木 博志
秋葉 玲子

(信用金庫国見支店)

八島 一成 吉田 重夫
佐藤 孝文 渡辺 伸一郎
樋口 郁雄 菅野 好美
鈴木 栄一 藤 進
菊地 喜伸

(国見町農協)

熊坂 きぬ子

(国見ガス住宅設備)

鈴木 廣茂

(国見町役場)

吉田 貞男 斎藤 隆義
小池 芳男 谷津 富夫
八島 英雄 小西 春彦
引地 由則 引地 真

瀬戸 とみ子 井 砂由男
井 橋 セツ 瀬戸 喜代子
板沢 アサ子 佐藤 洋子
桜沢 喜代治 小藤 八重子
佐藤 勉 佐藤 清春
岩城 明子 鈴木 木キ子
後藤 繁雄 佐藤 則子
八島 和子 小林 裕一
斎藤 ヒサ子 佐藤 光信
氏家 高吉 安藤 秀一
八島 長一 佐藤 和子
菊地 幸喜 渋谷 将信
松浦 ヨネ子 安達 功
栗原 幸恵 武田 勲
武田 和子 菊地 久喜
安達 はつ子

(商工会員)

黒田 義男 黒田 節子
松浦 惣一 吉田 昌子
亀月 保子 亀月 辰也
佐久間 昭雄 佐久間 ヨ郎
菅野 正雄 大森 好治郎
佐久間 ツヤ子 朽木 忠秋
本田 篤子 吉田 ととき子
桐沢 みよ子 高橋 芳男

ひとこと



本田 篤子さん 35歳
藤田 字南29

常日頃、献血をやってみたくて思っていました。比重が軽くできませんでしたが、今回初めてすることができました。まわりの友だちもしていました。私も献血でいくらかでも人のために役に立ちたいと思っています。



▲献血中の協力者の皆さん

武田 正裕 菊地 弘美
松浦 昭一 吉田 義勝
佐藤 克成 矢野 浩寿
菊地 軽子 吉田 恵子
大田 正子 佐藤 敦子

ふるさとの文化財

33

御瀧神社の湧水

菊池利雄



奥境山嶺より貝田との村境に沿って、南に延びる尾根筋の突端、鹿野山の南麓瀧沢の地にわきだすこの涌水は、御瀧神社(旧稻荷大明神)のうっそうと繁る鎮守の森の深い木立ちの中にあつて、上・中・下の池にそそがれ、池には大きな梵天(幣束)がまつられており、豊かな稲のみのりを水神に祈った、古

い信仰の形を今に伝えている。涌水からの豊かな清流は瀧沢川となつて、光明寺の邑をさるおし、かつては「湯沢の里」と称したといわれ、この川から堰上げられた上江・中江・下江によつて古い時代から水田が拓け、豊かな村里としてさかえていた。伝えによれば平安時代の天安元年(八五七)に、僧亮義が高寺山に三常院を創建し、阿弥陀三尊佛を安置したが、天慶年間に野火にかかりて焼失したため、佛像は運びだされて、瀧沢川ほとりの現在地に移されたといわれる。

また奥州合戦(一一八九)の戦功により、伊達朝宗は源頼朝より伊達郡の地を賜わり、夫人の結城氏は晩年をこの邑に過ごしたといわれ、瀧沢川沿いの鹿野山を背にした日向の山麓に、「玉殿」なる地名が残されており、夫人の御殿跡であろう。没後は現福聚寺裏の高台にある墓地に葬むられている。

伊達政依は朝宗夫人の菩提を弔うため、「伊達五山」の一つとして松陰山光明寺をこの邑に建立したといわれ、村名の由来もこの寺に由来する。その寺跡の地は明らかでないが、鹿野と沼地内にみられる長径八〇×六〇メートル、短径五〇×四〇メ

ートルの箱状の郭地割は、光明寺とその塔頭跡であろうか。また鹿野地内から涌水に向かう細道の分岐点は、香炉橋と呼ばれており光明寺関連の地名とみられ、現福聚寺もかつての塔頭の一つであろう。門前の付近には珍らしい形状をした虎石がある。また県道員田・梁川線と、高城に向かう町道の分岐点は花立と呼ばれており、御瀧神社参道右側の台地上には薬師堂があつて、石造のすぐれた薬師如来座像が安置され、地元での深い信仰をあつめていた。

天文七年(一五三八)伊達朝宗が、この郷の水田に課した段銭は七貫四五〇文(『陸奥の志』)で、これより推定される水田は約十五町(約一〇〇ヘクタール)と推定され、明治八年(一八七五)の、「信達二郡村誌」による光明寺村の水田は十九町八畝と比較すれば大差がなく、この涌水によつた、村の開発の古さを知ることが出来る。

このように、御瀧神社の涌水は信仰の水であり、この地域の開発をおしすすめ、文化をはぐくんだ、霊泉として崇敬されている。

(昭和六十一年八月、ふくしまの水三十選)に認定される)

参考文献 奥州野史 二、四巻 光明寺村誌

身近にある野草薬草

30

ネズミモチ



常緑低木で、樹高は二〜三メートル。幹は灰色で、直立してよく枝分かれします。葉は細長い楕円形で全縁、質が厚く、光沢があり葉柄に対生します。夏に、枝先に白色の小花を多数円錐花序につけます。花冠は筒状で、先端が四片に裂けています。開花期に特有のにおいがあり、秋に、長さ一センチくらいの楕円形

で、紫黒色の果実を結びます。名前の由来は、果実がネズミのふんに、葉がモチノキにそれぞれ似ているというので、古い時代にネズミモチノキと呼ばれ、その後、語尾がとれ、ネズミモチとなったものです。別名をネズミノフンともいいます。

中国原産のトウネズミモチを「女貞」とし、その果実を乾燥させたものを「女貞子」とするものが正しい生薬名ですが、日本ではネズミモチの果実も、特別に区別せず、女貞・女貞子として使用しています。

▼薬用▲
晩秋果実をとり、水洗いしてから日に干します。
強壯・強精に女貞子酒 一日量として女貞子十〜十五グラムを水五百ccで煎じ、三回に分服。または、女貞子酒(ホワイトリカー一・八ℓに、女貞子二百グラムとグラニュー糖二百グラムを入れて密閉。六月月後にして使用)を朝、昼、就寝前の一日三回、一回量二十ccずつ飲むといひです。

若しらがに 女貞子一回に五〜六粒をそのまま口に入れて、砕きながら飲みます。
女貞子酒の場合は、トウネズミモチの果実がいいです。
(山野草カラー百科から)



昭和六十二年 国見町奨学生の募集



当町では、故山田長一氏が町出身者の育英・奨学のために寄付された財産などをもとに、奨学金制度を実施しています。六十二年度も、次の要領で奨学生を募集いたします。希望の方は町教育委員会までお申し込みください。なお、現在中学三年生で希望の方は県北中学校へお申し込みください。

◆**修学資金(毎月)**
○募集人員 若干名
○金 額 高校八千円以内
高専一万円以内
大学一万五千円以内

◆**入学支度資金(入学時に貸与、修学期間内に返還)**
○募集人員 若干名
○金 額 高校十万円

高専十万円
大学十万円

④国、県や他の団体から同種の奨学資金の貸し付け、または給与を受けていないことが前提となります。

◆**申し込み期間**
昭和六十二年一月五日から一月二十三日まで。
※くわしくは「かいらん」をご覧ください。

昭和六十二年 幼稚園児を募集



国見町教育委員会では、就学一年前の幼児を対象として園児を募集いたします。

入園希望者は、左記のとおり申し込みください。

◆**申し込み場所** 藤田幼稚園、森江野幼稚園(入園願書などは各幼稚園にあります)

◆**申し込み期間** 昭和六十二年一月八日(休)、九日(金)(午後一時から四時三十分まで申し込みください。)

※なお、詳しくは「かいらん」をご覧ください。

国見町建設工事入札 参加資格申請書の 受付について

一、**受付期間**
昭和六十二年二月一日～二月二十八日

二、**対象**
国見町が発注する六十二・六十三年度工事の入札に参加希望するもの

三、**提出先**
国見町役場建設課、給配水工事については水道課、いずれも持参提出

四、**申請書の様式**
建設省統一様式または県指定様式

五、**書類のとじ方**
B5S判紙ファイルとじ

今月の納税

◆十二月は、町県民税・国民健康保険税(第四期)の納税の月です。

納期内(十二月二十五日)まで忘れずに納付しましょう。また、そのほかの税未納の方は、年内に完納されますようお願いいたします。

新民生・児童委員に 委嘱状を交付

任期満了に伴う新民生児童委員の辞令交付式と、退任委員への感謝状贈呈式が、十二月五日、町役場で行われました。

最初に、福島社会福祉事務所の新次長から退任された八人の方に厚生大臣の感謝状と記念品が贈呈され、続いて、新しい委員に厚生大臣(民生委員)と福島県知事(児童委員)からの委嘱状が一人ひとり手渡されました。

委嘱された委員と担当地区は次のとおりです。(敬称略)

◆**小坂地区**
斎藤光夫(新)小坂、太田川安藤トヨ(再)前田、板橋佐藤八重子(再)泉田上・中・下

◆**藤田地区**
吉田とし子(再)駅前
山内聰子(再)大町南
牧野容子(再)大町北
樋口清三(再)錦町

◆**上野地区**
曳地善作(再)木町・鶴町
栗瀬貞子(再)宮町南
佐久間巖(再)宮町北
樋口弘(再)天坂、宮東、町東

◆**宮内地区**
高橋恵子(再)山崎北、館・小館
高橋平助(再)石母田原、西

◆**宮谷地区**
斎藤洋子(新)源宗山東・北・西

◆**森江野地区**
佐久間モト(新)第一・第二
吉田三夫(新)第三・第四
阿藤俊(再)徳江北・第七
後藤新一(再)第八

◆**大木戸地区**
高橋隆雄(再)貝田
渋谷愛子(再)光明寺
長谷川キチ(再)高城
村上ミチ子(新)大木戸
吉川弥吉(再)山根
桜沢正再(原町・築館・並柳
玉手マルヨ(再)中部
鈴木正雄(再)川内

感謝状及び記念品贈呈者
橋ヤヨイ、遠藤喜市、佐藤マサ
イ、朝内ひで、吉田正雄、佐野
市郎、村上ハツコ、阿部キタ

国見町民生委員協議会の総務
曳地善作、副総務牧野容子
民生・児童委員は民生委員法
によって厚生大臣の委嘱を受け
た社会奉仕者であり、その職務
は、生活保護、児童福祉、老人
福祉、身体障害者、母子、父子
の福祉、心配ごと相談などにつ
いて関係行政機関に協力し、地
域活動の推進による少年の非行
防止と更生の援助を掲げ、増加
を続ける少年非行に対処するた
め、学校、家庭と地域の児童委
員との連携を続けて、一人でも
児童を不幸にしないように一層
幅広い地域活動を推進すること
が使命です。

児童委員をよろしく願っています。

善意の窓

町社会福祉協議会に

◆佐藤旭さん(錦町)から

二万円―故シゲさんのご遺志

◆小池トクさん(第三)から

三千元

◆農業祭実行委員会(八巻穀会

長から)

二万五千二百元―農業祭チ

ヤリテーバザール益金

◆野村茂さん(板橋)から

三万円―故正治さんのご遺志

◆仲野周一さん(泉田中)から

三万円―故イネさんのご遺志

森江野小学校に

◆塚野目老人クラブ婦人部から

ぞうきん三十五枚

◆蓬田晋一さん(第九)から

ビデオテープ二本(八・五水害、森江野小学校学習発表会を撮影したもの)

小坂小学校に

◆仲野周一さん(泉田中)から

二万円―故イネさんのご遺志

戸籍の窓口

(11月受付分)

出生おめでとうございます

子	名	保護者	部	落
恵美子(えみこ)	齋藤	文男	泉田	下根野九
美空(みく)	齋藤	幸利	山上	第一
浩俊(ひろつぐ)	倉田	真直	佐野	直光

ご結婚おめでとうございます

氏	名	部	落
氏小清	加藤	保大	宮崎
加高村	高野	桑島	福山
高村	佐藤	福大	福大
黒八	河		

おくやみ申し上げます

氏	名	年齢	部	落
高吾	橋妻	73	山崎	北戸内
佐野	三好	78	大川	板町
齋藤	正治	84	板町	錦徳
佐藤	久ゲ	78	板町	錦徳
佐藤	善兵衛	88	板町	錦徳
遠村	マエ	81	板町	錦徳
伸野	イネ	88	板町	錦徳

藤田保育所の入所児童を募集



藤田保育所では、昭和六十二年度の新入所児童を次のとおり募集いたします。

○受付期間

一月二十八日(木)から一月三十一日(土)までの午前八時半から午後五時まで。

○受付場所

国見町役場 住民課福祉係

○対象年齢

○歳から未就学児

○募集人員

一〇〇名

○持参していただくもの

人口と世帯

12月1日現在(前月比)11月中のうき

人	男	5,810人(+8)	転入	34人
	女	6,199人(+1)	転出	20人
口	計	12,009人(+9)	出生	4人
世帯	数	2,906戸(+6)	死亡	9人

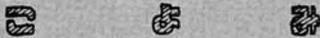
印鑑、会社員などの給与所得者の場合は、昭和六十一年分の源泉徴収票
※詳しいことは、役場住民課福祉係(☎一三二内三三)か、藤田保育所(☎一三二内三三)におたずねください。

年末年始水道修繕工事当番表

☎	半沢水道工業所	85三二〇三
☎	(南後藤設備)	85三二〇三
☎	(南久久設備)	85三二〇三
☎	(南国見設備)	85四一一七
☎	国見ガス住宅設備係	85二一三七
☎	県北水道	85二一七二
☎	高野電気	85二一七二
☎	徳江電気	85二一七二
☎	徳江農機	85二〇六七
☎	(南国見建工)	85四五二二

心配ごと相談日

場所: 役場二階相談室(東側入口からお入り下さい)
時間: 9時~12時
こまったことや、相談ごとがありましたら、お気軽にご相談下さい。秘密は絶対に守ります。
〔相談員〕
12月25日(木) 曳地 善作・斎藤 洋子
1月14日(水) 佐久間 巖・佐久間トモ
※1月5日は休ませていただきます。



12月	師走(しわす)	1月	睦月(むつき)
16日(火)	満月	1日(内)	元旦
20日(出)	小中学校2学期終業式	2日(内)	初荷、初夢
22日(内)	冬至	6日(火)	小寒
25日(内)	クリスマス	10日(出)	小中学校3学期始業式
31日(内)	大みそか	15日(内)	成人式

公民館だより

第一回ス。ポーツ少年団

駅伝大会開催される

第一回国見町ス。ポーツ少年団駅伝競走大会が国見町ソフトス。ポーツ少年団連合会主催、国見町教育委員会後援で十一月十六日に開かれました。

この大会は、ソフトボール以外の競技を実施することにより各団体の親睦をより高め、チームの友好、連帯感、協調性を図り青少年の非行防止と各団員の自覚向上を目的として開催されたものです。

大会には、町内ソフトス。ポーツ少年団十チームと隣接町招待の十チームの二十チームが、参加いたしました。

開会式では神津武志大会長の激励のあいさつがあり、来賓の賀藤議会議長、蓬田教育長の祝辞のあと、藤田Aチーム井砂崇選手が力強く選手宣誓しました。

午後一時藤田小グラウンドを各チーム一斉に出発。山崎、石母田、小坂の八区間、九・五キロ

国見町公民館
☎85-2676
(有) 4156



▲力走する各選手たち

のコースに健脚を競いました。小雨がばらつく中、選手たちは道での多くの声援をうけ一生懸命力走しました。

成績は次のとおりです。
優勝 小坂Aチーム
準優勝 月館愛宕チーム
第三位 東湯野チーム

中央婦人学級 乳幼児学級

合同学習会

十二月三日福祉センターで、「乳ガン早期発見」についての学習を開催しました。

最初にビデオをみてから、公立藤田総合病院副院長の渡辺宏先生の講話を受けました。

乳ガンは四十代に一番多く発生し、近年増えた原因として、所得が増えたことよって食生活が豊かになったこと、食生活がアメリカナイズしたことなどがあげられるそうです。

早期発見すれば完治するので、毎月一回必ず自己検診をして、おかしいと思ったらすぐ診てもらうことが大切であるとの話があり、有意義な学習会でした。



▲熱心に講話を聞く教室生のみさん



▲桑折の坂町観音寺で

中央婦人学級で

史跡めぐり

十一月十二日町文化財保護審議委員の菊池利雄先生を講師に、郡内の史跡めぐりを行いました。

梁川城跡をめぐりだしに八幡神社、希望の森、保原町大塚古墳、桑折寺山門を見学しました。

観音寺では、吉田住職の案内で普段は見られない仏像三体をらせていただきました。本堂の絵天井や、文字天井は色がそのまま残っていて、そのすばらしさに感嘆の声が聞かれました。文化財と歴史を訪ねた学級生は静かな秋の一日を過ごしました。

募集

親子スキー教室

- 期日 一月十八日(日)
- 時間 午前八時出発
- 場所 二本松塩沢スキー場
- 参加料 一人一〇〇〇円
- 定員 七十名
- 参加資格 原則として親子(四年生以上)

バドミントン教室

- 期日 一月九日(金)から二月六日(金)まで
- 場所 町民体育館
- 時間 午後七時三十分から
- 参加料 無料
- ※申し込み及び問い合わせ 町公民館(八五二二六七)

エアロビクス愛好者

会員募集

- 練習日 毎週金曜日
- 時間 午後七時〜八時まで
- 場所 国見町福祉センター
- 申し込み及び問い合わせ 「竹内ひとみバレエアートスクール」

渋谷浩美(八五二二六六)

少年仲間づくり教室

「たこ絵書きと
伝承あそび」



▲熱心なたこづくりに励む教室生

十一月三十日午前九時から町民体育館で、教室生六十名が参加してたこ絵書きと伝承あそびが行われました。

福島市の羽田先生の指導で、六角だこ作りに挑戦しました。最初に六角だこの形をとる作業、六角形の寸法をとるのに四苦八苦しながら完成しました。

続いてたこ絵書き作業にとりかかりました。

絵には、龍、寿、初日の出などおもしろい絵を書き終えました。

午後からサークルぼけっと会員の指導で、駒まわし、けん玉、お手玉などの伝承あそびで楽しい一日を過ごしました。

来年の一月十一日に行われるたこあげ大会が楽しみです。

阿津賀志学級で

「法律の学習」

阿津賀志学級では十一月の第二回目の学習として、遺産相続に関しての諸問題について学習しました。

講師は福島地方法務局桑折出張所の宗像正光さんで、具体例をあげての判り易い講義なので、学級生一同有意義な学習をすることができました。



▲法律の講話に耳をかたむける教室生のみなさん

健闘、五位入賞

第五回 郡内一周駅伝競走

伊達地方体育協会、伊達地方教育委員会共催の、第五回郡内一周駅伝競走大会が、十二月七日午前九時、飯野町役場前スタートで行われ、保原町中央公民館までの五十六・四キロメートルに、一般の部十三チーム、中学生の部三チームの計十六チームが参加し、健闘を競いあいました。

国見チームは、国見町走ろう会を主体に選抜された選手（一区国分政勝、二区佐藤武徳、三区高野輝夫、四区佐藤美由紀、五区岩城勉、六区山田市郎、七区安藤盛夫、八区青木功、九区斎藤洋二、十区中野一雄、十一区高橋豊光、十二区高村義孝の各選手）で編成、町代表チームとして大いに健闘し、昨年より八分短縮の総合時間三時間十八分二秒で第五位に入賞しました。

選手の皆さん、大変ご苦労様でした。

大会結果は次のとおりです。

一位	川俣町 A 3 時間 5 分 55 秒
二位	保原町 3 " 7 " 06 "
三位	梁川町 A 3 " 8 " 44 "
四位	霊山町 A 3 " 15 " 14 秒
五位	国見町 3 " 18 " 02 秒

昭和61年度伊達地方新生活運動各町申し合わせによる努力事項

● 努力事項

1. 何よりも心のつながりを大切にしましょう。
2. 心の通いあう冠婚葬祭への見直しを行いましょう。
3. 会合の時間を厳守しましょう。
4. 祝日には国旗を掲げましょう。
5. 広場や道路や川などを汚さないようにしましょう。
6. 資源を大切にし合理的な生活をしましょう。

● 具体的な申し合せ事項

1. 結婚披露宴……………引出物は簡素化にし、会費制を奨励する。
2. 葬 儀……………香典返しを廃止しハガキにて礼状とする。
3. 法 要……………三日・七日の法要及び仏送りは近親者にとどめましょう。
4. 快気祝……………見舞返しは取り止めハガキまたは封書による礼状にしましょう。
5. 出産祝・年祝・新築祝・入学祝など
できるだけハガキまたは封書による礼状にしましょう。



東海林正子さんに

自治大臣表彰

七月六日に行われた第三十八回衆議院議員総選挙並びに第十四回参議院議員通常選挙において、町選挙管理委員会委員長の東海林正子さん(藤田字南二七)が、その功績を認められ、栄えある自治大臣表彰を受彰されました。



▲表彰状を手に喜びの東海林正子さん

十一月二十一日、役場で伝達式が行われ、富永県北行政事務所長から東海林さんに、表彰状と記念品が手渡されました。

「今回の受賞は、選挙管理委員、担当された職員、それに町民の皆さんのご協力によっていただいたものです。今後は更に厳正公平に職務を全うし、この榮譽をけがさないよう努力します。」と東海林さんは喜びを語ってくれました。

火の用心

お願いします!!

小さな消防団

が呼びかけ

秋の全国火災予防運動週間を前に、藤田幼稚園児による防火



▲パレードで「火の用心」を呼びかけ

パレードが、十一月十二日町内で行われました。

小さい時から防火に対する正しい知識を身につけさせ、子供の火遊びなどによる火災の減少を図るとともに、住民の防火意識を高めることを目的としたものです。

パレードは、伊達地方消防組合の指揮広報車を先導に、藤田幼稚園を出発。園児たちは、そろいのハッピに豆しほり手ぬぐいのハチマキ姿で、拍子木、小型まといなどを持って、商店街を「火の用心お願いします」と防火を呼びかけました。

羽賀えいさんに

霊山町長賞

第六回福島県身体障害者福祉会伊達支部作品展示会が、十月二十七日霊山町で開催され、日本画の「山里の春」(三十号)を出品した羽賀えいさん(山崎字北町田六の一 六十四歳)に、霊山町長賞が受賞されました。

「山里の春」は、山崎山から石母田を望んだ風景画で、羽賀さんは三か月余をかけて完成しました。

十年ほど前、公民館で日本画

教室を開いたとき参加したので始めて、以来、手足が不自由にもかかわらず、絵を描き続けています。

展示会には、毎年出品しており、最高賞の町長賞は三回目。日本画のほかに、俳句や工芸品なども出品され、すべての作品から一点だけ受賞されるという栄えある賞です。

「生きがいでして日本画を描いています。手足が痛いですが、描いているときは、痛みも忘れてしまいます。日本画を描けるのも家族の理解があるからこそできるものと思っています。今後も、動ける限り絵を続けたい。」と喜びを話してくれました。



▲霊山町長賞を受けた羽賀えいさん

編集日記

○今年も、早いもので残すところあとわずかとなりました。この一年間、大変お世話になりました。

○今年は何年になく雪が降らず、気温も高いようで、おだやかな年の瀬、そして新年を迎えられています。あわたたしい最中ではあると思います。この一年をふりかえり、反省し、そして来年へのステップとするのも大事なことだと思います。

○先日、小坂宿、鳥取宿を取材に行きましたが、ちよっと路地裏に入ると、昔のおもかげを偲ばせてくれる道しるべの石が人知れずたずみ、また、長い間多くの旅人などが利用し、今は木立の中に埋もれてしまった旧道など、私たちの町にも、こんな所があったのかと感心させられました。車社会の現代、じつくり散策する機会が少ないでしょうけど、たまには、自分たちの近くを、じっくり観察しながら歩くのもいい事だと思います。○ところで、年の瀬、カゼが大変流行するためにも、身体には十分注意したいものです。 S